

## 2. JR可部線・路線バスの利用促進策検討

先に示した市民等のニーズ結果より、JR可部線および路線バスの利用促進施策としての意見が多いものは、JRの増便やダイヤ改正、電化延伸（JRのみ）、駅までのバス本数の増加や駐輪場・駐車場整備などに関わる施策が挙げられる。このため、JR可部線の活性化には、JRの利便性向上だけでなく、駅周辺の交通環境を整え、バスも含めた複数モードの連携強化が必要である。また、現在のマイカー利用の多い現状を勘案すると、公共交通の利便性向上に合わせて、住民の公共交通利用の意識を高める取り組みも必要と考えられる。

以上の視点から公共交通の利用促進策を検討するにあたり、国内における先進事例について整理を行った。以下に、整理対象の一覧を示す。

- (1) 自動車との連携 : パークアンドライド施策の実施 (兵庫県加古川市、富山県高山市、  
広島県広島市)
- (2) 自転車との連携 : レンタサイクルの実施 (静岡県伊豆市)
- (3) 鉄道とバス・タクシーとの連携
  - : 乗り換え情報の提示 (愛媛県松山市)
  - 乗り合いタクシーの導入 (広島県広島市)
- (4) 意識変容の促進 : 職場モビリティ・マネジメント (京都府宇治市)  
学校モビリティ・マネジメント (広島県広島市)

## 2. 1 自動車との連携

### ①パークアンドライド施策の実施（兵庫県加古川市）

出典：交通新聞（平成 18 年 11 月 13 日）、朝日新聞（平成 18 年 8 月 25 日）

#### ア) 施策の概要

- ・ JR加古川線は、加古川～谷川間を結ぶ鉄道であり、以前は乗降客減少が大きな課題であった。
- ・ そのため、電化による利便性向上を始め、各種取り組み（可部線の利用促進施策）を推進した。その中でも効果が高い取り組みとしてP&R（パーク・アンド・ライド）が挙げられる。
- ・ 駐車場が設置された駅は、厄神駅、市場駅、社町駅（H18.11 時点）で整備されている。

#### イ) 実施効果と課題

- ・ 厄神駅では、駐車場スペース 100 台のうち 90 台分を、JR定期券利用者が 5000 円で利用。その結果、厄神駅利用者数は前年度比 106%と、大幅に増加した。
- ・ 市場駅、社町駅も6～7%増加している。



資料：交通新聞（平成 18 年 11 月 13 日）

図 2.1 JR加古川線の取り組みを伝える新聞記事

## ②パークアンドライド施策の実施（富山県高山市）

出典：JR高山本線活性化社会実験実施協議会ホームページ

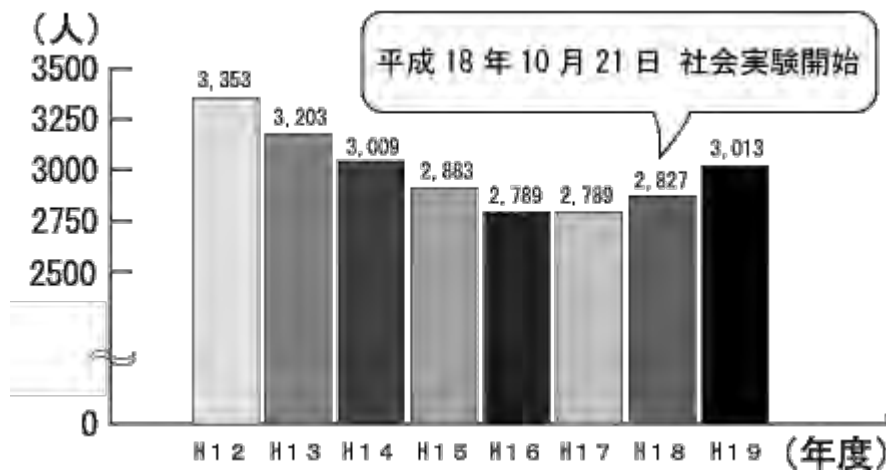
富山市ホームページ

### ア) 施策の概要

- ・JR高山本線は、利用者数の減少から運行本数が減少し、これがさらに利用者数を減少させるという悪循環に陥っていた。
- ・そのため公的資金を活用してサービスレベルを向上させ、利用者数の回復を狙う社会実験を実施した。（平成18年10月～）
- ・同時に、自動車利用者の転換を狙うため、駅周辺に無料のP&R駐車場を整備している。

### イ) 実施効果と課題

- ・実験開始後は、速星駅（JA あおば 10 台、婦中行政センター20 台）、越中八尾駅（JA あおば 20 台、駅南側 40 台）、笹津駅（笹津駅南側 10 台）の3駅合計で103 台の駐車場が確保され、登録台数は89 台（86.4%）であった。（2007年5月1日市長定例記者会見より）
- ・その後、千里駅（10 台）、婦中鵜坂駅（44 台）でも駐車場が整備されている。
- ・平成19年度の富山市内のJR高山本線の1日あたり平均乗車人数は、3,013人で、社会実験開始前の平成17年度と比較すると、224人の増加。（運行頻度の増加やパークアンドライド駐車場の設置の効果）



資料：富山市ホームページ

図 2.2 JR高山本線の利用者数

### ③パークアンドライド施策の実施（広島県広島市）

出典：広島市ホームページ、広島都市圏パーク＆ライド推進協議会ホームページ

#### ア) 施策の概要

- ・広島市では平成6年からP & Rの試行を開始し、その後も利用促進P R事業として各地でP & R事業を実施。また平成 13 年には、駐車場情報提供の効率化等を目的とした「広島都市圏パーク＆ライド推進協議会」を設立し、そのホームページにおいて平成 14 年からアストラムライン、JR在来線、広電宮島線等の駅周辺の民間駐車場をP Rしている。
- ・平成17年4月1日からは、JR緑井駅前のショッピングセンター駐車場を活用して事業を行っている。

#### イ) 実施効果と課題

- ・JR可部線内の駅においてもP & R駐車場が位置しており、それぞれ利用率は高い。
- ・特に緑井のショッピングセンターは、100台の駐車場が確保され、登録台数は 80 台（80.0%）である。（2009 年1月時点）

**緑井パーク&ライド 会員募集中**

快通にやさしいのびとびをもち、お出かけ先まで送迎してみませんか?

**パーク&ライドとは**  
 広島から善喜り会駅に約10分車通しで車に乗り、駐車(P&R)して、電車・バスと公共交通機関に乗って「パーク」移動するサービス。渋滞でイライラすることもなく、お利便的にもなります。カンパニーの個性化施策や営業強化情報との発信を自ら発信することも可能です。

**【サービス】**  
 安佐南区緑井町丁目3番 フジクワンビル前 駐車場の一部(8席・庫上)

**【年会費】**  
 15,000円/月(消費税別)  
 【毎月フジの商品券を10,000円分受取しますので実質の利用料金は5,000円です。】

**【サービス内容】**

① 平日(月～金) 限定とします。	⑤ 運用時間は7:00～24:30とします。
② 利用日、年末年始(12月24日～1月6日) お盆期間及び予祭の追加する日は運用しません。	⑥ 早晚定数(朝・夕)の比率を調整していただきます。
③ 緑井で申込者を審査の上会員を決定します。	⑦ 定数を超えられない場合は申し替えてください。
④ 決定した方にはメンバーカードと必要書類を発送しますので会費を入金してください。	⑧ その他お問い合わせ・事項は遵守してください。





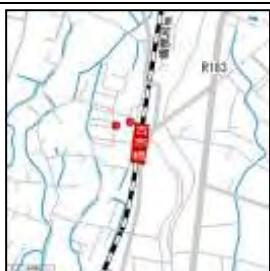





**【申し込み】**  
 申込書に必要事項を記入し、捺印のうえ、お名前および車種別のコピーを添付して緑井まちづくり(株)まで郵送してください。【申込書は緑井まちづくり(株)事務局、緑井まちづくり(株)のホームページ【<http://www.greenwell.com>】およびフジクワンビル前サービスカウンターにてございます。】

**【お問い合わせ】**  
 現在、約100台のパーク&ライドを実施中です。パーク&ライドがどんなものか試してみたい方は立休駐車場入口の係員までお申し出ください。無料体験利用をさせていただきますので、どうぞお気軽にお試しください。

**お問い合わせ先**  
**緑井まちづくり株式会社**  
 (緑井スカイステージ内)

〒730-0108 広島市安佐南区緑井町丁目3-1-008  
 TEL:082(577)3026 FAX:082(577)9289  
 E-MAIL: [info@greenwell.com](mailto:info@greenwell.com)

図 2.3 緑井P & R駐車場チラシ

駅名	登録駐車場箇所数及び台数	駅名	登録駐車場箇所及び箇所数
安芸長束	箇所数:2カ所 駐車可能台数:53台 契約台数:41台 料金:8,000～10,000円/月 	七茶軒	登録なし 
下祇園	登録なし 	梅林	登録なし 
古市橋	箇所数:2カ所 駐車可能台数:31台 契約台数:26台 料金:8,000～10,000円/月 	上八木	登録なし 
大町	箇所数:1カ所 駐車可能台数:18台 契約台数:18台 料金:10,500円/月 	中島	箇所数:1カ所 駐車可能台数:32台 契約台数:22台 料金:6,300円/月 
緑井	箇所数:9カ所 駐車可能台数:271台 契約台数:236台 料金:7,000～10,000円/月 (フジグランは15,000円であるが、10,000円の商品券あり) 	可部	箇所数:2カ所 駐車可能台数:29台 契約台数:25台 料金:6,000～6,300円/月 

平成21年3月8日現在

図 2.4 可部線沿線のP & R登録駐車場の状況

## 2. 2 自転車との連携

### ① レンタサイクルの実施（静岡県伊豆市）

出典：中伊豆地区広域観光システム事業推進協議会ホームページ

国土交通省ホームページ

#### ア) 施策の概要

- ・ 自転車で中伊豆地域の魅力を再発見し、温泉めぐりも楽しんでもらおうとファミリーサイクル・マウンテンバイクを65台用意。民間事業者の参加により伊豆箱根鉄道、東海交通、天城温泉会館の5ヶ所にサイクルステーションを設け新しい観光システムとして平成14年4月27日から実施。
- ・ 伊豆地区広域観光システム事業推進協議会の主催事業として、伊豆長岡、大仁、修繕寺、中伊豆、天城湯ヶ島の5町が参加している。
- ・ 具体的な事業は、サイクルステーション設置、レンタサイクル事業、お勧め周遊ルートの設定など。

#### イ) 実施効果と課題

- ・ レンタサイクルの利用台数は843台（平成14年4/27～翌1/31の累計）  
利用者の割合 男性54.2% 女性45.8%
- ・ 利用者の大多数は鉄道利用者であり運賃収入の増加に寄与。



図 2.5 ホームページによるレンタサイクルPR

## 2. 3 鉄道とバス・タクシーとの連携

### ①乗り換え情報の提示（愛媛県松山市）

出典：日本バス協会ホームページ

国土交通省ホームページ

#### ア) 施策の概要

- ・伊予鉄道株式会社では、平成 16 年4月より、郊外電車とバスの到着予測や乗継ぎ情報、ニュースなどをリアルタイムに発信する「電車・バス総合情報システム」を導入。
- ・郊外電車・バスの車内をはじめ、鉄道拠点（9 駅）、公的施設（11 施設）、P C、携帯電話でも、それぞれの場所にに応じた情報発信を行い、電車・バス一体となったサービスの提供が行われている。

#### イ) 実施効果と課題

- ・鉄道とバスの車内で、相互の乗り継ぎ情報が提供されており、モード間の連携強化に寄与している。
- ・また結節点では電車運行管理システムやバスロケーションシステムと連動したリアルタイムの運行状況（定刻・遅延情報）や方面別の先発情報が提供されており、利便性向上に寄与している。



図 2.6 電車・バス総合情報システムによる情報提供

## ②乗り合いタクシーの導入（広島県広島市）

出典：広島市ホームページ

### ア) 施策の概要

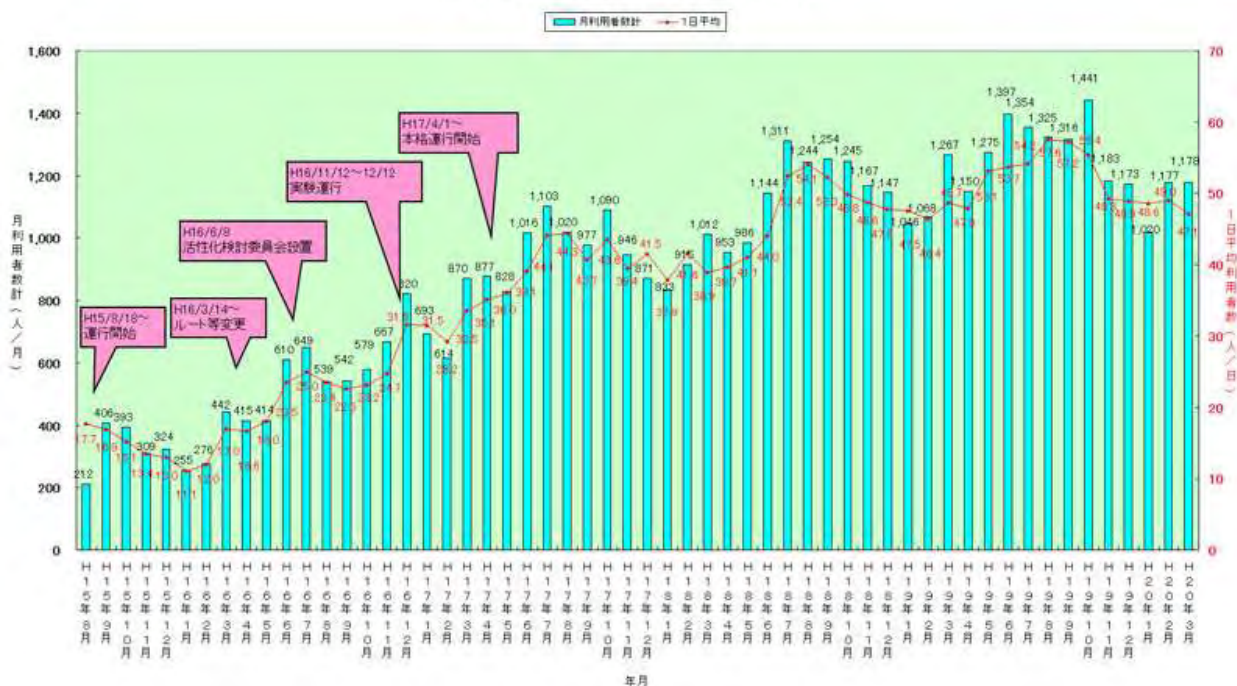
- ・「やぐちおもいやりタクシー」は、安佐北区口田地区のふじランド・上矢口地区を循環運行する住民主導型の乗合タクシー。
- ・この乗合タクシーは、地域住民が中心となり導入を進めた交通機関であり、地元のタクシー会社の協力のもと、平成15年8月から運行が始まった。

### イ) 実施効果と課題

- ・運行開始後利用者数が伸び悩む中、交通システムを持続させていくため、平成16年6月、中国運輸局を中心に、学識経験者、地域の代表、運行事業者と広島市で構成する検討委員会を設置し、サービス改善に取り組んだ。
- ・その結果、利用者数は徐々に増え始め、平成17年7月には目標とする40人/日を超えた。その後は増減を繰り返しているが、採算ラインで推移している。



やぐちおもいやりタクシー利用者数の推移





## 2. 4 意識変容の促進

### ①職場モビリティ・マネジメント（京都府宇治市）

出典：国土交通省ホームページ

#### ア) 施策の概要（社会実験を2ヵ年実施（その後も、取組みを継続））

- ・1年目（平成17年度）は、自動車通勤者の交通行動の変化を促すために、事業所の協力のもとMM施策の一つであるトラベル・フィードバック・プログラム（以下、TFP）を実施。TFPとは、個別にコミュニケーションを図りながら、意識と行動の自発的な変化を促すプログラムのことであり、一度のコミュニケーションによる「ワンショット TFP」を、宇治商工会議所に登録されている全ての事業所の約4,400名の職員を対象に実施した。さらに、参加協力が得られた235名を対象に、インターネットを活用して複数回コミュニケーションを図る「標準 TFP」を実施した。
- ・2年目（平成18年度）も、宇治商工会議所に登録されている全ての事業所職員を対象にワンショット TFP を実施し、またMM施策による実際の交通行動を計測するために宇治地域の最寄り駅における鉄道乗降客調査を実施した。

#### イ) 実施効果と課題

- ・朝通勤時の定期券外での鉄道利用者（近鉄大久保駅・JR宇治駅・京阪宇治駅）がTFPの実施前後の比較で約30%増加（17年度実施前：1,104人→18年度実施後：1,417人）、アンケート対象地域である宇治地域の2駅（JR宇治駅・京阪宇治駅）に限っては定期外降車人員が約45%増加（17年度実施前：424人→18年度実施後：613人）、定期券での降車人員が約4%増加（17年度実施前：1,058人→18年度実施後：1,096人）などの効果が得られた。また、事業所周辺での自動車利用が減少し徒歩が増加するなど、交通行動の変化がみられた。
- ・市内の主要交差点においては、施策実施前後で、渋滞長が約3割減少した箇所を確認。



図 2.8 配布した通勤マップ

②学校モビリティ・マネジメント（広島県広島市）

出典：日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）ホームページ  
 広島市ホームページ

ア) 施策の概要

・環境問題に関心を持ち、環境に優しい行動がすすんでできるという態度を育てることも目標に、広島市五日市観音小学校（5年生・3クラス）を対象に、交通と地球環境をテーマにした体験・実践型の学習を実施。（平成19年11月～平成20年2月）

・授業の流れ

- ①地球温暖化の現状としくみ（1校時）：市の出前授業を活用して、地球温暖化の原因や影響、自分たちの生活との関連について学習。
- ②環境にやさしい新しいクルマ「水素自動車」って何？（1校時）：水素自動車を学校に用意して、その仕組みを学習。
- ③環境にやさしい乗り物は？（1校時）：教室内で、乗り物とCO<sub>2</sub>排出量の関係について学習。
- ④電車の利用方法の学習（1校時）：身近な乗り物である電車の利用方法について学習。
- ⑤電車とバスの体験乗車〔校外学習〕（3校時）：電車やバスの体験乗車を行うとともに、電車やバスの仕組みについて交通事業者から学習。
- ⑥「交通すごろく」を使った授業（2校時）：すごろくゲームを用いて、社会全体を考えてとるべき行動（地域や人にやさしい行動）について学習。
- ⑦リサイクル工作（2校時）：牛乳パックを使った工作を通じて、リサイクルについて学習。
- ⑧学習のまとめ（ポスター作成）（4校時）：一連の「交通と環境」学習で分かったこと、気づいたことを整理し、ポスターを作成。

イ) 実施効果と課題

- ・授業により、環境にやさしい交行動に対する児童の意識が向上（クルマより電車・バス利用が良いと思う、が約3割→約9割）
- ・授業の効果が、各世帯にも波及（今後はもっと電車やバスを利用しようと思う、が約6割。）
- ・授業の方法をまとめた「ノウハウ集」を作成。

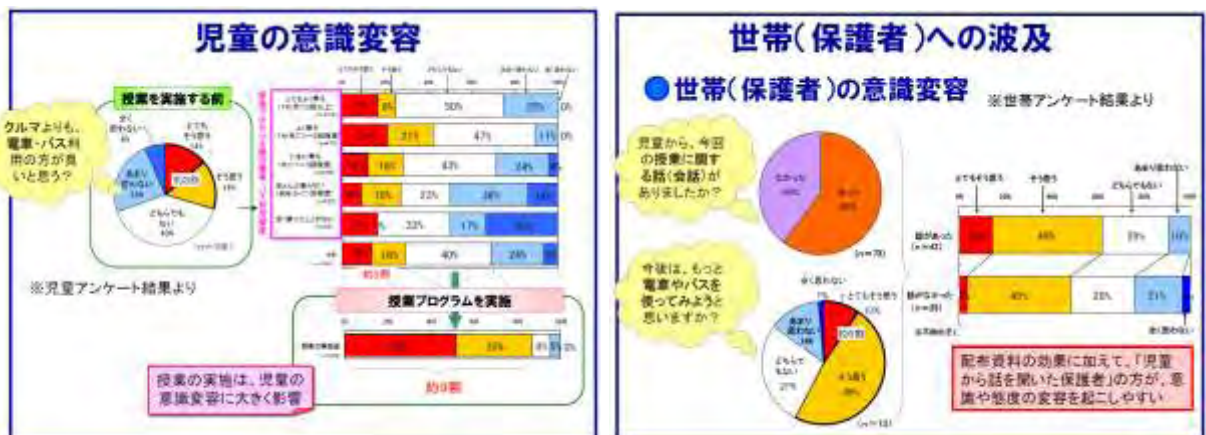


図 2.9 学校モビリティ・マネジメントの実施効果